

平成25年度「逗子市学習状況調査」の分析結果（中学校）

〇はじめに

平成25年4月24日に「逗子市学習状況調査」が行われました。この調査は、逗子市の児童・生徒の学習状況を把握・分析し、各学校の指導方法の工夫・改善および児童・生徒の学習に役立て、市として必要な施策の策定に資するために行われたものです。実施内容は、市内中学校2年生とし、国語、社会、数学、理科、英語の5教科で、神奈川県調査問題をもとに行われました。

この分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善を図り、本市において教育施策の成果と課題を把握しその改善を図るよう努めたいと思います。

なお、ここでいう学力とはこの調査で測ることができた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

1 実施状況

- 調査実施日 平成25年4月24日
- 実施教科 教科に関する調査（国語、社会、数学、理科、英語）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立中学校2年生 392名

2 逗子市の調査結果の概要（中学校2年生）

国語	<p>国語は、「書く能力」（1設問）の平均正答率が69.1%、「読む能力」（9設問）が58.9%、「言語についての知識・理解・技能」（12設問）が69.0%とやや課題の残る結果となりました。</p> <p>「読む能力」については、文学的な文章において文脈を理解し適切な語句を入れる課題で正答率が87.2%や説明的な文章において文脈を理解し指示語の意味をとらえる課題で正答率が75.2%とやや良好な結果になりました。しかし、論理展開をとらえる設問において、正答率が40%を割るなど、段落の論理的なつながりを捉えることや論理的な内容の理解に課題が残りました。「言語についての知識・理解・技能」では、主語・述語の関係になっているものを問う設問で38.9%と、文節のはたらきについての理解に課題が残る結果となりました。「綿密」という漢字についての読みを問う設問では、「ねんみつ」という解答が多く見られ、音による日常的な学びからの誤認識を示す結果となりましたが、訓読みは2設問とも80%を超え比較的良好でした。</p>
社会	<p>社会は、「社会的な思考・判断・表現」（9設問）の平均正答率が62.5%、「資料活用の技能」（4設問）が64.4%、「社会的事象についての知識・理解」（25設問）が59.0%とやや課題が残る結果となりました。</p> <p>「社会的な思考・判断・表現」ではオセアニア地域の特色について問う設問で、正答率が45.0%と北半球と南半球での気候の違いの理解や、室町時代の琉球を介した貿易の仕組みの理解の正答率が34.0%と課題が残る結果となりましたが、資料を関連付けて特徴を読み取る設問では、問二（3）が70%以上、問三（4）が81.1%の正答率と比較的良好な結果となりました。「資料活用の技能」では、人口の変化という経年的変化に対するグラフを選ぶことは正答率が90.8%と良好な結果になりましたが、2つの略地図上での</p>

	<p>同位置を問う設問で、正答率が 34.0%と課題が残りました。メルカトル図法の地図での位置は特定できるものの、正距方位図法では同じ位置を特定できないことを示す結果となりました。また、「社会的事象についての知識・理解」では、弥生時代や大和朝廷の生産物に関しては 80%を超える正答率でしたが、その説明には課題が残りました。また、武家政権の成立について問う設問で正答率 50%を割るなど、課題が残りました。特に執権についての説明文に対し、39.6%が「摂関政治」と解答するなど、名称とその内容の結びつきの理解に課題が残る結果となりました。</p>
数学	<p>数学は、「数学的な見方や考え方」（5 設問）の平均正答率が 44.4%、「数学的な技能」（17 設問）が 65.3%、「数量、図形などについての知識・理解」（8 設問）が 61.1%とやや課題の残る結果となりました。</p> <p>「数学的な見方や考え方」については、不等式をつくれるか問う設問で正答率 18.5%と課題が残る結果となりました。方程式をつくれるか問う設問は正答率 57.2%であることから、不等号を使用した式をつくることに課題を示す結果となりました。また、ヒストグラムをもとに分析する設問では正答率が 36.9%とヒストグラムから特徴を見出すことに課題が残りました。「数学的な技能」では、数と式の領域の分数計算において負の符号が付いていても加算は正答率 78.2%と比較的良好な結果であったのに対して、除算が加わると正答率は 39.0%と下がるなど、分数や指数、四則計算が混じった設問について課題が残る結果となりました。しかし、図形の領域の垂直二等分線の作図や投影図から立体を見いだすことは 87.7%と比較的良好な結果となりました。「数量、図形などについての知識・理解」では、具体的な事象についての関数関係を問う設問の正答率が 42.1%と二つの数量の変化についての理解に課題が残りましたが、度数の理解に関しては正答率が 83.6%と良好な結果でした。</p>
理科	<p>理科は、「科学的な思考・表現」（11 設問）の平均正答率が 58.3%、「観察・実験の技能」（4 設問）が 54.2%、「自然事象についての知識・理解」（19 設問）が 48.4%と課題の残る結果となりました。</p> <p>「科学的な思考・表現」については溶解度の理解に関する設問で正答率 40.7%と溶解度曲線の意味の理解に課題が残りましたが、地震計の波形の振れ幅から地震の規模を推定する問題では正答率が 87.0%と良好な結果でした。弦の長さの変化による音の大小や高低の変化を問う設問で、正答率が 47.3%と課題が残りました。70.1%が「高い音が出る」と解答しているものの、「振動数が多くなる」という要因についての理解不足を示す結果となりました。「観察・実験の技能」では、濾過の方法については正答率が 82.6%と良好な結果であったのに対して、顕微鏡の操作の手順を正しい順に並びかえる設問が正答率 23.5%と顕微鏡の操作順序が理解できていない結果となりました。「自然事象についての知識・理解」では、単位面積あたりに働く圧力の大きさを求める設問が正答率 10.5%、地層ができた当時の環境を推定する手がかりとなる化石を問う設問が 13.3%、水溶液の濃度の計算を問う設問が 18.9%と、さまざまな側面で課題が残る結果となりましたが、受粉やS波・P波の知識を問う課題では 70%以上の正答率となりやや良好な結果でした。</p>
外国語 (英語)	<p>外国語（英語）は、「外国語表現の能力」（14 設問）の平均正答率が 48.5%、「外国語理解の能力」（16 設問）が 48.0%、「言語や文化についての知識・理解」（18 設問）が 75.5%</p>

	<p>と評価の観点によって正答率が大きく違う結果となりました。</p> <p>「外国語表現の能力」については I often go there. の副詞 there を問う設問で、正答率が 19.7%と there の用法に対する理解に課題が残りました。誤答の中には「前置詞 to+場所」を書いたものが 43.5%ありました。「外国語理解の能力」及び「言語や文化についての知識・理解」では、文中の空欄に入る日本語訳、英語を問う設問で、日本語の正答率が(ア)、(イ)それぞれ、48.8%、25.3%と文章の繋がりを日本語でも表現できていないことがわかりました。日本語で表現できている場合は英語にすると約 10%減の正答率でした。「言語や文化についての知識・理解」については、文の整序問題は正答率が 80%超えと 30%台と 2 分する結果になりましたが、会話文における慣用的な言い回しは全て 70%を超えやや良好な結果でした。</p>
--	--

3 調査結果を踏まえた指導の改善

(1) 国語

書く能力	<p>複数の資料や説明文を比較するためには、それぞれの資料や説明文の相違点を捉え、自分の視点に合わせてそれらを長短所として表現することが大切です。</p>
読む能力	<p>文学的文章では、登場人物の性格や心情、行動、情景などに注意して考えさせるとともに、生徒同士で意見発表の場を設けることも重要です。また、作者の表現の仕方にも注意させて、その表現で何を表そうとしているのか考えさせることが大切です。</p> <p>説明的文章では段落ごとに内容を捉えるとともに、段落のつながりを正確に捉えることが大切です。また、説明文の解釈は文単体で解釈するのではなく、前後の文章から意味を捉えるようにすることが重要です。</p>
言語についての知識・理解・技能	<p>正確な漢字を書くことができるだけでなく、文脈に即して使えるよう指導することが重要です。読み（音）を漢字と意味、そして単語を構成している漢字一文字ごとにも意味があることを教え、どのような関係で単語が作られているのか理解させることが大切です。</p>

(2) 社会

社会的な思考・判断・表現	<p>複数地域の同じ指標がある場合は、一つひとつの表から読み取れること以外に各資料間での相違点を見出すことが大切です。一つの表から地域を特定することは、類似した地域もあるため難しく、各資料間での特徴を見出すことで、地域ごとの地理的事象を考察する等して、特定化していくプロセスが大切です。雨温図や特産物、人口分布図など、色々な資料を組み合わせることで地域の特徴を特定することで、思考力の向上につながります。</p>
資料活用 の技能	<p>グラフに多くの手法があるように、地図にも多くの手法があります。それぞれの地図の対応について理解するだけでなく、地図による長短所を把握することも重要です。地図の長短所を理解することができれば、適切な表現方法の選択にもつながります。どのような場面や目的でどの地図を選択するのか、その理由とともに教えることが大切です。</p>

社会的事象 についての 知識・理解	社会的事象の学習は単に個々を暗記するだけでなく、その事象が起こった要因について触れることが重要です。知識と知識をつなぎ、そこにどんな関係性があるのかを理解することで、それぞれの知識の定着を促します。時代の変遷を意識した授業が、求められます。
-------------------------	--

(3) 数学

数学的な 見方や 考え方	数学的な見方や考え方を養うためには常に根拠を持つことが重要です。資料から読み取れることを説明するにあたり、何を基にそのことがいえるのかを常日頃考えることが、筋の通った説明をする力を養うことにつながります。日常生活にある何気ないグラフから、常に読み取れることを複数探することが大切です。また、同じ資料を基に様々な人の解釈を知るとも、視点を広げるために必要となります。クラスで1つの資料に対し、議論の場を設けることが大切です。また、日常的な事象を数式にするには、まず等価な等式と見なし、次に大小を考える不等式へとステップを踏んで考えることが大切です。
数学的な 技能	計算を正確に行うためには、式のどこから先に計算するのかを意識的に（ ）をつけて計算順序を明示したり、“÷”記号を消すための工夫をしたり、負記号を左によせるようにしたりと、簡単になるような工夫を教えることが大切です。また、見通しをもって通分するなど、式の変形の見直しも重要です。
数量や図形 などに ついての 知識・理解	数量の関係を捉えるには、二つの数量の変化を捉えることが重要です。二つの数量の内の一つを増やしたり減らしたりして、他の数量がどのように変化するかを表やグラフに表すことができれば、比例、反比例であることは容易に理解できます。日常内にある具体的な事象を発表しあう機会を設けることにより、数量の関係の特徴を捉える力を養うことが大切です。

(4) 理科

科学的な 思考・表現	科学的に捉えるために、図表や模式図の理解は欠かせません。事象をある観点で観察した結果を示したグラフの読み方、そこから何がわかるのかは、事象と合わせて理解させることが大切です。また、模式図でどのような特徴をどう捉えるかを明示しながら考えていくことが大切です。
観察・実験の 技能	顕微鏡の操作手順の正しい理解のためには、その手順で行う理由を理解させることが重要です。誤った操作を行った際の不都合を実際に試して見せるなど、手順どおり行う理由を生徒に納得させることが大切です。
自然現象に ついての 知識・理解	<p>自然現象について理解するには身近なもので体験し、理解することが大切です。体重計などを利用し物体の置き方により質量は変わらないことを確かめたり、他方、手さげ袋の持ち手の太さを変えて、感じる重さの違いを実感したりと、接触面積によって圧力が変化するものを体験することで自然現象への理解が深まります。</p> <p>自然現象を日常的なもので体験することで、理科の用語やその意味、知識を覚えたいという学習意欲を持たせていくことも重要です。</p>

(5) 外国語 (英語)

表現の能力	表現をするためには、つながりのある文章として理解することが大切です。文を一つずつ捉えてしまうと、文章をつながりとして理解できず、次に続く文の方向性を見失ってしまいます。つながりを意識することで、文章の意向を理解し、適切に応じることが可能となります。具体的な状況でのケーストレーニングを繰り返し行うことで、文章として理解することの意識づけも効果的です。
理解の能力	文の理解には語彙や文法の幅広い知識が重要です。そのため、授業の際には文中にある語彙や文法の紹介にとどまらず、類義語や類似表現を確認・紹介することにより、知識を広げられるような授業を展開していくことが大切です。
言語や文化についての知識・理解	新出の文法事項や語彙の確認だけでなく、文構造の説明も大切です。関係代名詞などによる後置修飾については用法を確認するなど、復習の機会を日々提供することも知識定着の助けとなります。